

徳寿宮前春昼長 宮内花開宮外香 太皇頤神玉霄上 都人久不瞻清光 今晨忽見肅天仗 翠華黃屋從天降 一声清蹕万人看
天街氷消樓雪殘 北来又有一紅傘 八鸞三駢金轂端 輦中自是瑤池母 鳳舄霞裳剪雲霧 太皇望見天開顏 **万国春風百花舞**
(長文のため以下略)

【読み】

徳寿宮の前 春昼長く、宮内に花開きて 宮外に香る。太皇 神を頤(やしな)う玉霄(ぎよくしょう)の上、都人久しく 清光を瞻(み)ず。今晨(こんしん) 忽ち見る 肅天仗(てんじょう)、翠華黃屋 天より降る。一声清蹕(せいひつ) 万人看(み)、天街氷消え 樓雪残る。北よりまた来る 一紅傘、八鸞(はちらん)三駢(さんぴん) (さんひ) 金轂(きんこく)の端。輦中(れんちゅう) 自(おのず)から是れ 瑤池の母、鳳舄(ほうせき)霞裳(かしよう) 雲霧を剪(き)る。太皇望み見て 天顔を開き、**万国春風 百花舞う。**…

【意味】

徳寿宮の前では春の日が穏やかに長く続き、宮殿の中で咲いた花の香りが外にも漂っている。太皇太后は静かに心を落ち着けて天上の世界に安らぐようで、都の人々は長い間その清らかな姿を目にしていない。今朝、突然、厳かで整然とした儀仗隊が現れ、皇帝の旗を掲げた車がまるで天から降りてきたようだ。儀仗の声が一声響くと、多くの人々が注目し、街路では氷が溶け、楼閣の雪がまだ少し残っている。北の方角からは赤い傘が現れ、三頭だてで八個の鈴と金の飾りをつけた豪華な馬車が進んでくる。その車に乗るのは、まるで天上の瑤池に住む女神のような太后で、鳳凰の刺繍が施された靴と霞のような衣をまとい、雲や霧を切り裂くように進んでいく。太皇太后がその景色を見て、穏やかな微笑みを浮かべると、まるで**春風が万国を吹き包み、百花が舞い踊るようだ。**

* 徳寿宮…太后(皇帝の母親)が住んでいた宮殿 * 太皇…皇帝を退位した元皇帝を指すがこの詩では太皇太后のこと * 玉霄上…天上の世界 * 翠華…皇帝の儀仗に用いられる翠羽で飾られた旗 * 肅天仗…おごそかな兵士の一団 * 黄屋…皇帝の車の蓋を指し、黄色の布で作られている * 轂…傘 * 八鸞…馬の首や車につけられた八つの鈴飾り。 * 三駢…三頭だての馬 * 金轂端…金で飾られた車軸の両端部分 * 輦…人力で引く車を指し、後には皇帝専用の車 * 瑤池母…神話に登場する瑤池に住む女神「西王母」を指し、ここでは太皇太后を意味する * 清蹕…皇帝が外出する際、道を清め通行を禁止すること * 鳳舄…靴 鳳凰の刺繍が施された靴 * 天顔開…太皇太后が笑顔をみせることを指す。 * 万国…中国全土を指す

【出典】 題曹仲本出示譙国公迎請太后図自肅天仗以下皆紀画也 (楊万里・南宋) 曹仲本が出示する譙国公(しょうこくこう)の太后を迎請する図に題す。肅天仗より以下、皆これ画を記す

【詩題の意味】

曹仲本が示した、譙国公(曹勲(そうくん))が太后を迎える場面を描いた絵に寄せて書いた詩。絵の中で『肅天仗』以降の場面は、すべて詳細に記録されている。

※この詩は難解で私が解釈した読み・意味に間違いがあるかもしれません。参考程度に。